

Y30a 国立天文台アーカイブ室の活動(1)：レビュー

渡部 潤一, 中桐 正夫, 大島 紀夫, 佐々木 五郎, 縣 秀彦 (国立天文台)

国立天文台天文情報センターでは、平成 20 年 4 月、国立天文台発足 20 年の節目にアーカイブ室を発足させた。そのミッションは「歴史的価値のある天文学に関する資料（観測測定装置、写真乾板、貴重書・古文書）の保存・整理・活用・公開を行う」ことである。

これまでは個々の研究者の興味・関心に基づき、あるいは内部的に必要に迫られた時や外部の要請などに基づいて散発的に行われてきたものであるが、これを明確に業務として位置づけ、より統一的・効率的・系統的に行う方針を示したものである。

組織的には、平成 22 年度末で「普及室・アーカイブ室」となって再編成されたが、スタートダッシュの 3 年を経て、これまでに得た成果は、種々の貴重な観測装置・測定装置の発掘・復元、重要文化財指定、また麻布時代に遡る写真乾板の発見や、そのアーカイブ化など、どれも大きなものである。（これら代表的な成果については、続いての発表を参照のこと。）

本講演ではアーカイブ室の設立の経緯から、初期成果の概要を紹介する。